

「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成～

I 研究テーマにかかわって

自然環境は全ての生き物の生活基盤であるが、人間はこれまで自然を破壊し、あたかも人間だけが特別な存在であるかのように自然に対して大きな負荷を与え、再生不可能ではないかと思われるような開発を行ってきた。その結果、地球は、大気汚染、海洋汚染、オゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨、水質汚濁、食糧問題、人口問題、エネルギー問題、絶滅が危惧される動植物の数々等、実に様々な環境問題を抱えるようになった。また、福島第一原発による放射能汚染は、終わりの見えない最大の環境問題である。

これら問題を解決するためには、私たちの生活と自然とのかかわりにどのような問題があるのかという実態を正しく把握し、その原因を追求することが大切である。また、環境問題を引き起こしている社会経済の仕組みも理解し、環境に配慮した仕組みに変革していく努力も大切である。私たち一人ひとりが、問題解決のために何をしなくてはならないかを考え、実行していくことが必要とされている。

本部会では、まず、私たちが環境に対する現状認識を深めるとともに、環境問題を自分の課題としてとらえ、主体的に取り組んでいけるような子どもの育成をめざしてテーマを設定した。そして、子どもたちが自然に親しみ、自然の素晴らしさや不思議さに気付くことができるような環境学習を仕組んだり、行事や家庭との連携の中でできることをとらえ直したりした。

II 研究内容

1 研究授業

(1) 第6学年 総合的な学習の時間

「私たちが知っているお気に入りの場所を紹介しよう」

授業者 向山 潤 教諭（笛川小）

- ・総合的な学習の時間の一環として、「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方を具現化するためにお気に入りの場所についてリーフレットを作り、伝え合う学習を行った。

(2) 第1学年 生活「水神池の冬を見つけよう」

授業者 青木 恵 教諭（玉宮小）

- ・生活「水神池の冬を見つけよう」の学習を行った。身近にある里山の自然について、どのような発見があるか。冬の季節の自然の様子について観察し考える学習を行った。

2 一人一実践

部会員一人一人が日々実践していることなどを報告し、意見交換をした。

3 臨地研修

山梨市牧丘町（乙女高原）での自然観察会を行った。

Ⅲ 成果と課題

1 研究授業

8月の統一授業研（笛川小学校 向山 潤 教諭）の実践では、身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成をめざし、身近な自然を取り上げた「私だけが知っているお気に入りの場所を紹介しよう」の単元名で学習を行った。家族と散歩をしている際に見つけた通学路の自然や祖父の家にある桜の花や学校帰りに眺めている川にある自然の魅力について等、子どもたちに身近な場所からお気に入りの場所を取り上げた。そして、身近な家族に桜の木を植えた理由や木にできる謎の物体のことについて家族に聞いたり、インターネットや図鑑を使い調べたりすることにより、児童のお気に入りの場所に関する考えが、さらに以上に深くなっていく様子を発表の中で実際に見ることができた。また、プレゼンテーションソフトを使い発表用原稿を作成し、Ipad を使い発表していたため、子どもの ICT を使った教育の実践の1つとても紹介することができた。

2月の統一授業研（玉宮小学校 青木 恵 教諭）の実践では、水神池公園に行き、自然観察を通して、冬の昆虫や花、植物などを実際に確かめることができた。オオムラサキが、冬の時期になると幼虫になり、エノキの葉の裏でじっとしている様子を実際に見ることができた。また、池の中には、カエルの卵があった。池の周りではイノシシが水浴びをした後の様子も観察することができた。

どちらの授業も、研究テーマにかかわる体験的な活動をメインとした内容であり、身近な自然や人と環境との繋がりや季節による自然環境変化とそれに対応するための自然の知恵を改めて実感し、自然環境に目を向けることができた。これらの実践を通して、環境問題を考えるための基礎を培うことができたのではないかと思われる。

2 一人一実践

部会員一人ひとりの得意な分野を生かした実践等が紹介された。担当する児童の生活単元学習の実践、植物図鑑を使った実践、山梨県の鳥、花、木、川の長さを調べてまとめた実践、校内のクリーン活動、有価物回収作業の実践、学校の杜を利用した実践、緑の少年少女隊の取り組みの報告及び紹介を行った。

それぞれの部員が実践等を持ち寄り、相互に新しい知識や取り組みを教え合えたり深め合えたりでき、とても有意義であった。

3 臨地研修

夏季学習会の折に山梨市乙女高原に行き、自然活動を行った。平地の気温と5度近く異なり、夏の日差しはあるものの、涼しい中で行うことができた。シモツケ、クガイソウ、オミナエシ、シシウド等山野草が咲き、蜂や蝶など多くの虫達も観察することができた。

乙女高原までの車中では、子どもたちの興味や関心を惹きつけるような、面白く不思議な植物（含む動物）の知識を共有することができ、とても良い機会となった。

（部長 中村伸也）